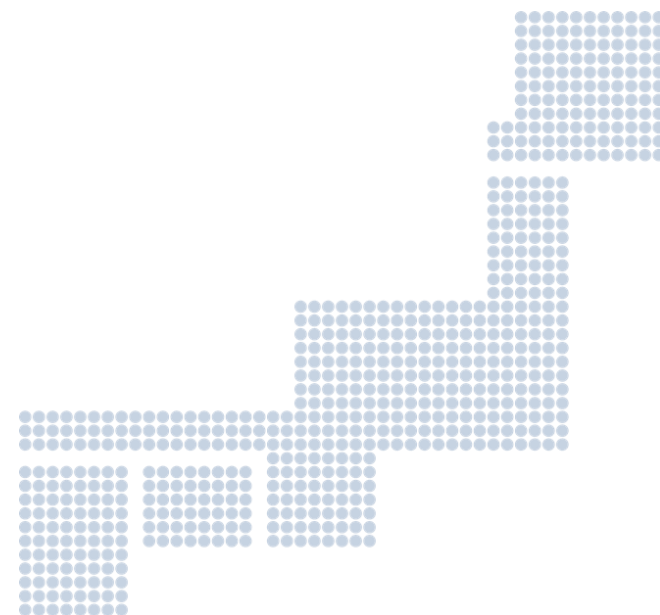


# インフラツーリズムの今後の方向性

---



## ① インフラツーリズムの目標

○インフラツーリズムの今後の方向性の目標案として、来訪者数の拡大を設定。

### 【目標案】 来訪者を大幅に拡大

年間 約 50万人 (H29年度)



年間 約100万人 (H32年度)

## ② インフラのライフステージ毎の観光活用

○インフラのライフステージ(時間軸)のそれぞれで、観光活用としての公開が実施されている。

インフラのライフステージ	観光活用の例
計画段階	工事前の公開
工事中	工事現場の公開
完成時(開通時)	完成直前ウォーキング、完成イベント
供用中	定期・常時開放
供用中(歴史的施設)	土木遺産、世界遺産
廃止	トンネル跡

# インフラツーリズムの今後の方向性

## ③ インフラの特性・規模

○インフラのライフステージのそれぞれで、施設分類に応じ、インフラツーリズムとしての活用が進められている。

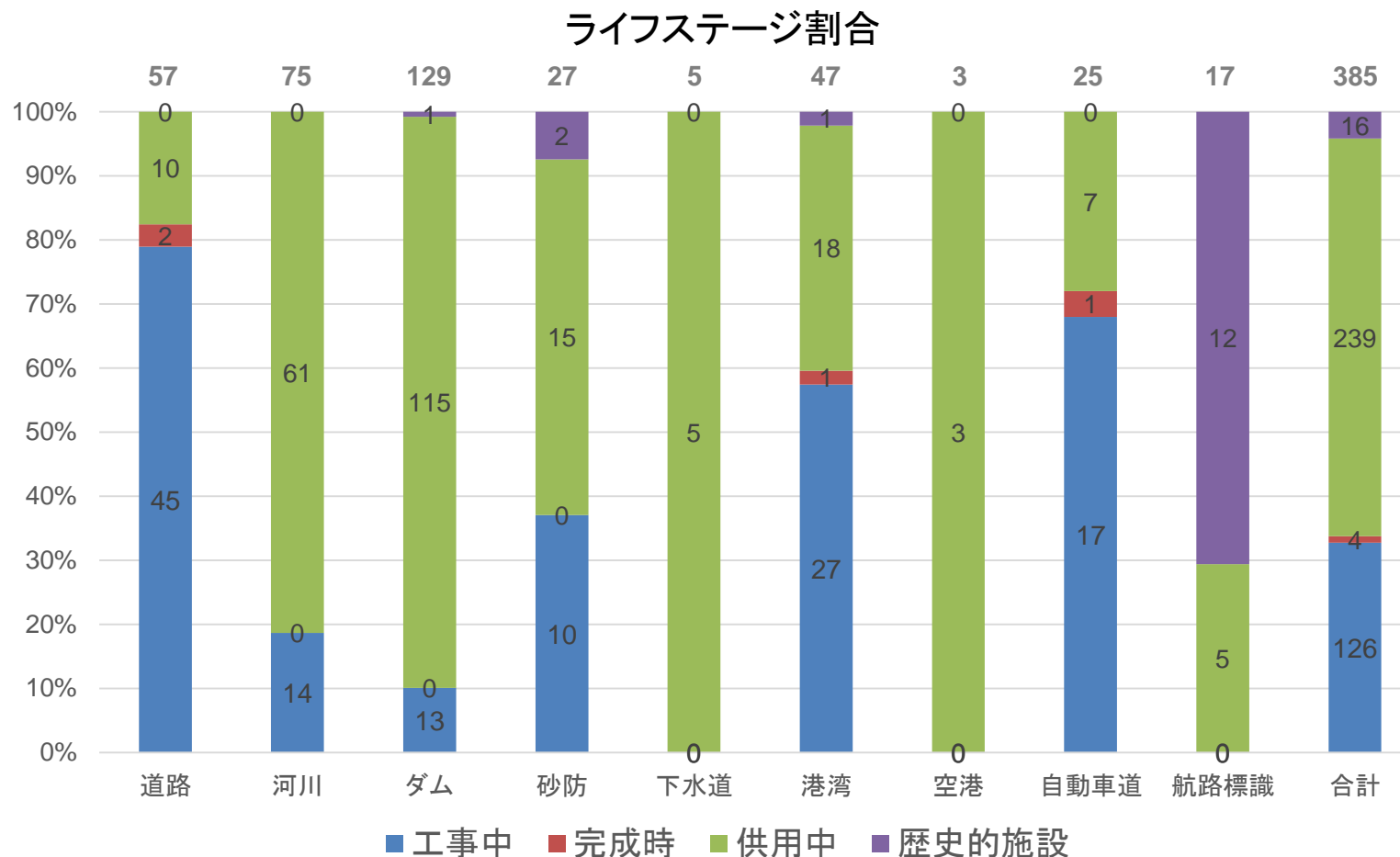
	計画段階	工事中	完成時 (開通時)	供用中	供用中 (歴史的施設)	廃止
大規模な施設 (単体で旅行の目的となる)	△	◎	◎	◎	○	△
身近な施設 (組み合わせで訪れる)		○	○	○	○	△

◎ : 活用されている箇所が多い  
 ○ : 活用されている  
 △ : 活用されていることがある

# インフラツーリズムの今後の方向性

## ④ インフラの施設分類毎の特性

○インフラのライフステージのそれぞれで、施設分類に応じ、インフラツーリズムとしての活用が進められている。

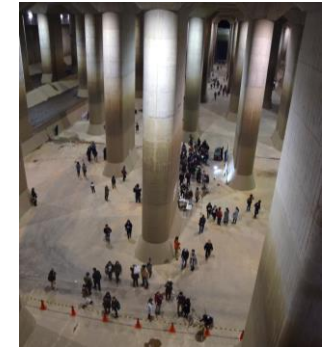
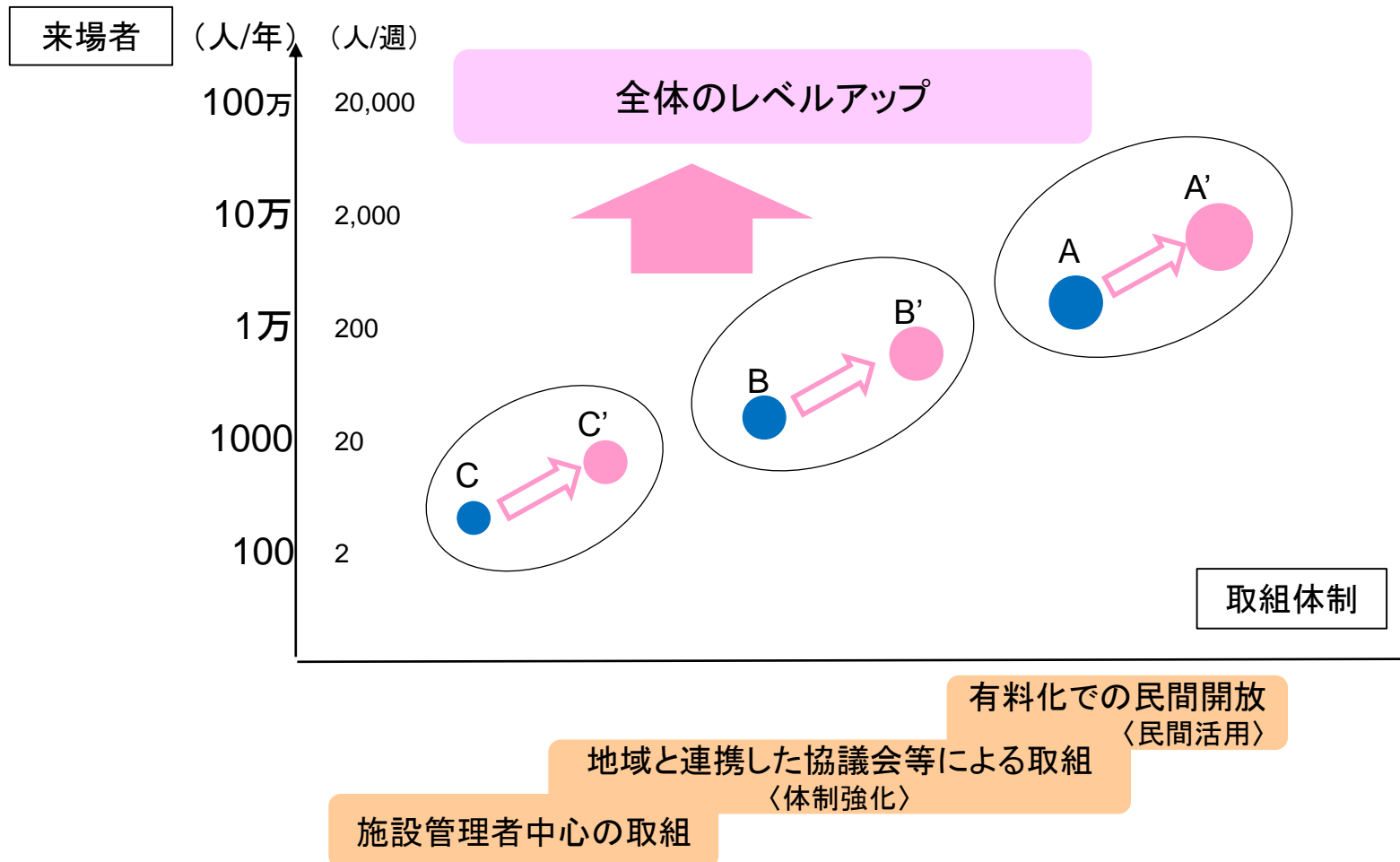


※対象:ポータルサイト掲載施設

# インフラツーリズムの今後の方向性

## ⑤ 施設の特徴・地域目標に応じたレベルアップ・ステップアップ

○施設の特徴、地域の目標に応じてステップアップを行うことで、インフラツーリズム全体の集客拡大が可能になると考えられる。



A 首都圏外郭放水路



B 津軽ダム



C 霞ヶ浦導水

# インフラツーリズムの今後の方向性

## ⑥ ツーリズムの目的と活用手段

○ターゲットを「インフラを見たい人」と「観光客」とに分け、ツーリズムに訪れる目的に応じてサービスレベルのアップを図ることで、各施設、箇所での集客拡大が可能になると考えられる。

ターゲット		ツーリズムの目的	活用する手段(強化)の例
インフラを見たい人	観光客		
◎	◎	写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジュアル、視点場、景観マッチング、季節</li> <li>・写真映え、SNS</li> </ul>
◎	○	デザイン 機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識欲求を満たす(ウンチク)、解説</li> </ul>
○	○	コレクター(収集家)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラカード</li> </ul>
	○	体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語り部</li> <li>・安全性の確保</li> <li>・乗り物</li> </ul>
	○	歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーリー(物語性)、メッセージ</li> </ul>
	○	周辺との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地、おみやげ</li> <li>・アクセス経路、地図</li> </ul>

◎ : 特に重要である    ○ : 重要である

# インフラツーリズムの今後の方向性

## ⑦ ロゴマークによる認知度アップ

○インフラツーリズムの認知度を上げるため、シンボルとなるロゴマークを作成・公表し、広報の強化を図る。

<道の駅>



<みなとオアシス>



<インフラツーリズム 素案>



(施設毎の例)



(インフラ全体の例)



## ⑧ インフラ施設と地域との連携

○地域と連携しながら、インフラ施設を観光資源として育てるとともに、来訪者を周辺の観光資源など地域全体に誘うことにより、インフラ施設の活用を地域活性化につなげる。

### インフラ施設と地域との連携（イメージ）

地域の観光資源



人気の自然スポット



インフラ施設の観光資源化



構造を活用したコンサート

地域のおみやげ



温泉地での宿泊



地元観光ガイドの育成・活用